

第 11 回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年 12 月 5 日

番号	1	質問者	太 田 茂	タイトル	元気な交流文化都市を目指して
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	モビリティ社会への対応について	(1) グリーンスローモビリティ実証実験結果について、市長の感想は。 (2) 地域公共交通網形成計画に、乗り合いタクシー利用を盛り込むことを検討してはどうか。 (3) 本市の公共交通機関網は、残念ながら脆弱であり、高齢者の免許返上が進まない。高齢者が長く、安全に運転できるよう、急発進防止装置等の補助制度を検討してはどうか。 (4) 高齢者にドライブレコーダーの購入補助を検討してはどうか。			市 長
2	JR 和田山駅自由通路の整備について	(1) 和田山駅自由通路の計画策定が進められているが、現状は。また、その内容は。 (2) 和田山駅北側の JR 用地や和田山駅舎の有効活用についてはどうか。 (3) 自由通路の設置計画は、バリアフリー化を盛り込んだものになっているか。 (4) 事業化には、多額の事業費が必要と想定されるが、国の補助制度等、財源を検討されているか。			市 長
3	観光業の活性化について	(1) 今年度実施された観光動態調査の実施方法等について、お伺いします。 (2) 動態調査の結果から来訪者の出発地が多い地域はどこか。また、都道府県別では、どこか。 旅程で、日帰りと宿泊の割合は。 来訪者が多い年代は。また、男女の割合は。 本市の観光エリアで来訪者が多い箇所は。また、人気の周遊ルートは。 (3) 動態調査の結果を受け、本市の観光での課題をどのように認識しているか。 (4) 女性に人気の観光ルートを整備する必要性はどうか。 (5) 女性に人気の観光地を、創生総合戦略に位置付け、財源を確保し、整備してはどうか。			市 長
4	災害避難所の充実について	(1) 災害対策本部と災害避難所との連絡手段はどのように確保されているのか。 (2) 避難者が外部の親族等と連絡するための手段についてはどうか。			市 長

第 11 回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年 12 月 5 日

番号	2	質問者	小 山 裕	タイトル	民間活力によるまちづくり
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	NPO 法人の活用について	(1) 地域づくり支援事業（NPO 法人設立支援事業）についてその内容と目的は。 (2) 本市での NPO 法人の活動実態とその評価、近隣との比較は。 (3) NPO 法人設立のメリットとデメリットとは。 (4) 特定非営利活動促進法成立後、NPO 法人の増加とともに、全国的に中間支援組織の設立が増えた。 中間支援組織とは、行政と地域の間になんか様々な活動を支援する組織のことで、多くは NPO 法人への支援などを主目的として発足してきた。 本市とこうした中間支援組織との連携はあるのか。 (5) 本市ホームページから 地域自治協議会の役割、イメージには ・ 地縁型組織である自治会とテーマ型組織である各種団体、NPO 等が協調・補完しあうことで、地域内の地域力を向上させることができる。 ・ 自治会がもつ総合力(地域包括性、地域代表制、情報伝達力等)と各種団体、NPO 等がもつ行動力(専門性、自主性、多彩なテーマ性等)を集結させて、より地域での大きな活力を創出することが可能となると記載されていますが、実例はあるのか。 既存の NPO 法人はもとより、新規の法人をまちづくりに活用すべきと考えるがどうか。			市 長
2	クラウドファンディングの活用について	(1) 朝来市でのクラウドファンディングの状況は。 (2) クラウドファンディング活用の発想はあるのかお伺いする。 (3) クラウドファンディングはアイデア次第で資金調達から観光、まちづくりに生かせるものとするがその所見は。			市 長
3	地区防災計画について	(1) 地区防災計画の必要性とその進捗状況をお伺いする。 (2) 朝来市地区防災計画作成マニュアル(平成 31 年 2 月)が出されていますが、どの程度の完成度と期間を想定されているのか。 (3) 完成度の高いマニュアルと認識していますが、改めてその重要性を問う			市 長

4 災 害 時 の LINE 利用に ついて	(1) 熊本地震の発生当初、情報収集の手段として携帯電話、地上波放送に次いで LINE の利用が多かったようである。 行政として、利用を検討してはどうか。	市 長
5 自殺対策につ いて	(1) 朝来市の自殺率の推移は 全国との比較と地域性の特徴はあるのか伺います。 (2) これまでの対策にはどのようなものがあげられるか 伺います。 (3) 高齢者化にともなう生活困窮者の増加化が予想され る。更なる福祉の充実したまちづくりが重要になると 思うがどうか。	市 長

第 11 回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年 12 月 5 日

番号	3	質問者	西 本 英 輔	タイトル	子育て世帯の負担軽減を！
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	学校管理下における事故について	(1) 市内にある学校等（高等学校、特別支援学校、こども園等含む）で、学校管理下における怪我はどういったケースがどの位発生し、どのように原因の究明、対策がなされ、事故件数はどのように推移しているか。 (2) 怪我の程度にも様々あるが、医療機関の受診が必要な怪我や、入院加療が必要となるケースはどの位あるのか。 (3) 上記において朝来医療センター、朝来医療センターを除く公立豊岡病院組合立医療機関、市内医療機関、市外医療機関を利用した件数は外来・入院それぞれ何件なのか。 (4) 朝来市では乳幼児等医療費助成制度、こども医療費助成制度、高校生等医療費助成制度（以下、市の医療費助成制度）を実施しているが、その目的は何か。 (5) 学校管理下で発生した 5,000 円以上の医療費を要した怪我に関しては、市の医療費助成制度ではなく日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度（以下、災害給付制度）の対象となるが、その理由は何か。 (6) 災害共済給付制度の利用対象となっているケースにおいて、それを利用せず、市の医療費助成制度や自己の健康保険を利用している者はいるのか。 (7) 上記の様な者がいるのであれば、他方優先の原則が崩れているが、その原因は何にあると考えられ、どうすれば改善につながると思われるか。 (8) 災害共済給付制度を利用する場合、最終的に医療費に加え見舞金も給付される。しかし、給付までにはある程度の期間を要する為、特に入院となった場合には一時的に医療機関に支払う金額は多額であり、大きな負担となっている。法や制度の壁もあるとは思いますが、例えば市の医療費助成制度で医療機関に医療費を支払い、後に災害共済給付を市が受け取る、もしくは保護者より返納を受ける等、一時的なものであっても子育て世帯の負担を軽減する方法を模索すべきと考えるがどうか。			市 長 教育長

	(9) 入院時、子供の年齢が低ければ低いほど、特に小児病棟が無い医療機関に入院する場合などは保護者が付き添いをし、個室を利用すると室料差額が発生するケースが多いと思う。学校管理下における怪我に関わらず、一定の年齢未満の者が豊岡病院組合以外の医療機関に入院となり個室利用がとなった場合、組合立病院であれば減免される相当額を補助すべきではないかと考えるがどうか。 (10) 児童生徒が入院となった場合、学業の遅れが心配されるが、どのように対応されているのか。	
2 小中学校における各種大会について	(1) 毎年、朝来市小学生陸上大会が開催されているが、この大会は学校単位での参加なのか、個人での登録なのか。この大会の位置づけはどういうものか。 (2) 上記大会は多くの場合、開催日は土曜日などの閉校日に開催されると思うが引率の教職員は勤務扱いになっているのか。 (3) 上記大会で優秀な成績を修めた児童は県大会、更には全国大会と上位大会に出場する。そのような場合、引率となる教職員はいるのか。いるのであれば、それは勤務扱いなのか。 (4) 上記の場合、出場児童の宿泊費、移動費などの旅費は誰が負担しているのか。 (5) 市内小中学校において、部活動以外で小学校陸上大会のように教職員が引率を行う類似大会はあるのか。 (6) 中学校の部活動であれば中学校維持管理事業部活動振興補助金等により補助を受けることができるが、部活動以外の活動、例えばスポーツに限らず書道や絵画などで全国大会や全国展覧会にて入賞・入選するなど顕著な成績を修めた時、その表彰式に出席する場合などは何らかの補助をなされているのか。なされていないのであれば、要件下の元、補助を行うべきと考えるがどうか。	市長 教育長

第11回朝来市議会定例会一般質問（個人質問） 令和元年12月5日

番号	4	質問者	足立 義 美	タイトル	竹田城跡観光を中心として
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	秋葉台での実証実験の成果と城跡観光への導入について	(1) 秋葉台で実証実験された、グリーンスローモビリティの活用についての評価は。 (2) 身体の不自由な高齢者や障がい者等は、現状では城跡観光できない状況にあります。何か対応策を検討されていますか。 (3) グリーンスローモビリティを城跡観光に導入し、上手く活用すれば、観光客のすそ野を広げることにつながるのではと考えますが、市長のご所見は。			市 長
2	観月会等新たな取り組みの実績と評価について	(1) 観月会やスカイランタンフェスティバル、御城印、婚姻記念証等、意欲的に取り組まれていることは高く評価します。 この新たな取り組みに対し、どのような反響がありましたか。また、事業効果について、どう評価されていますか。 また、今後もさらなる取り組みを展開する予定はありますか。			市 長
3	冬季閉山期間の短縮等について	(1) 現在、1月4日から2月末までの期間は、冬季閉山期間となっていますが、閉山期間を短縮できないかという要望があります。短縮について、市長のご所見は。 (2) 閉山中の厳冬期に、条件を整えることを前提に雪の竹田城跡撮影会を開催すれば、写真愛好家をはじめ、新たな観光客の誘客につながるのではと考えますが、市長のご所見は。			市 長
4	城跡名刺等の発行について	(1) 市の観光大使に、どんな名刺を託されていますか。また、具体的に、どのような活用を依頼されていますか。 (2) 私は、以前、市が作成、販売していた竹田城跡の名刺を活用しています。 市が以前のように名刺台紙（竹田城跡、生野銀山、神子畑選鉱場跡、あさご芸術の森等4種類程度）を作成し、職員、市民等に安価で販売し、PRの底上げを図るべきだと考えますが、市長のご所見は。			市 長
5	「天空の城」の登録商標について	(1) 竹田城跡は、天空の城として売り出してきました。今では定着し、天空の城という名称を使用した商品が出回っていると思います。天空の城が登録商標されているかどうか、お伺いします。			市 長

	(2) 登録商標されていなければ、誰かが独占するリスクを避けるために、市か商工会等で登録するべきと考えますが、市長のご所見は。	
6 立雲峡観光の振興策等について	(1) 立雲峡のパフレットは、竹田区が市の監修を受け、作成する予定とお聞きしていましたが、既に、完成し、配布されていますか。 (2) 立雲峡の観光は、雲海の雄大な景色が目玉になっています。地元のある調査によると年 30 日程度雲海が出ているとのこと。雲海という現象を正しく理解してもらうため、雲海情報のさらなる充実等が必要と考えますが、市長のご所見は。 (3) 現在は、10 月、11 月を中心とした PR となっていますが、雲海の出る期間等、もう少し幅を広げて PR する必要があると考えますが、市長のご所見は。	市 長
7 街中への誘客方策等について	(1) 多くの観光地でレンタサイクルが実施されています。竹田地域、生野地域でもこのような取り組みが必要と考えますが、市長のご所見は。 (2) 竹田地区内では、電線の地下埋設が予定されているようですが、予定区間、工期等について、お伺いします。これまでに竹田の街中への観光客の誘導対策として取り組まれたことは何ですか。また、今後予定している取り組みは、何ですか。 街中への誘導看板を設置するとともにスタンプラリーや謎解きゲーム等のイベントを実施すれば、新たな魅力の発信につながるのではと考えますが、市長のご所見は。 (3) 昔、まちなか駐車場の近くにあった水車小屋を復元すれば、新たな魅力の創出につながると思いますが、市長のご所見は。 (4) 。	市 長
8 城下から石垣がよく見えるよう樹木の伐採等実施について	(1) 2016 年に策定された「史跡竹田城跡保存活用計画」に沿って、調査・管理等が実施されていますが、進捗状況について、お伺いします。 (2) 城下から石垣ができるだけよく見えるようにすべきだと考えますが、樹木の伐採等の計画について、お伺いします。 (3) 登り石垣を持つ城は、日本には少ないので、観光資源として貴重だと考えます。将来、登り石垣を観光に活用する可能性について、お伺いします。 (4) 大堅堀が、登山道に隣接してありますが、雑木や草の繁茂のため見づらくなっています。定期的に除草等を実施すべきと考えますが、市長のご所見は。	市 長 教育長

第 11 回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年 12 月 5 日

番号	5	質問者	能見 勇八郎	タイトル	朝来市公共施設再配置について
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	再配置計画策定の状況について	(1) 公共施設再配置計画策定に向け、これまでどのような取り組みがなされたか。 (2) この計画に向けた「視点」として、①安全性、②必要性、③有効性、④効率性が上げられているが、どのような考え方か。 (3) この視点から「機能」、「建物」、「管理運営」について個々の公共施設の評価を行った上で、「地域別ワークショップ」が行われたようだが、問題となる意見や注目すべき意見なかったか。 (4) 他の部課との意見交換は行わないのか。特に各支所、観光交流課、防災安全課、芸術文化課などとはどうか。 (5) 各地域の市民がその公共施設にいただいている価値観が特に大切と思うが、さらなる意見交換は行わないのか。 (6) 担当課だけの問題とせず、市の活力を維持していくためにも各地域の街づくりを目指して、この再配置計画は策定されるべきと思うが市長の考えは。			市 長

第 11 回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年12月6日

番号	6	質問者	浅 田 郁 雄	タイトル	子供達の教育の充実を！
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	教師のいじめ について	(1) 現在、市内の小中学校において教師同士のいじめはあるのか。 (2) こども園ではどうか。 (3) もしあった場合、市ではどのように対処、又は処分するのか。			教育長
2	子供の運動能力 について	(1) 小中学校では、運動能力テストを実施しているのか。 また、市内の子供達の運動能力は高いのか、低いのか。 (2) 子供達の運動能力を上げていく必要があると考えるが、各学校では、どのような取り組みをしているのか。 また、教育委員会は、どのような指導をしているのか。			教育長
3	校区外就学に ついて	(1) 自分が居住する校区以外の学校に通学する事はできるのか。 また、それにはどんな条件が必要なのか。			教育長
4	免許外教科担 任制度につい て	(1) 教師が、自身が保有する免許以外の教科を担当することは可能なのか。 また、それにはどんな条件が必要なのか。			教育長
5	病院の二次救 急について	(1) 休日に負傷した時に、朝来医療センターではなく八鹿病院か豊岡病院に搬送される事が多いように聞くが、現状はどうか。 (2) 休日でも朝来医療センターで治療が受けられるようにすべきと考えるが、市長の考えを伺う。 (3) 朝来医療センターの医師の増員やMRI導入に向けて、市長はどのように対応されているのか。			市 長
6	市内の花火大 会について	(1) 市内の3つの花火大会の現状について、市長の考えを伺う。 (2) 花火大会を今後も継続するためには、助成額の増額を検討する必要があると思うが、市長の考えを伺う。			市 長
7	和田山駅南北 の往来につい て	(1) 駅北から市役所、駅前から駅北方向への移動に、高齢者は大変困っている。安全かつスムーズに往来できる方法について、市長の考えを伺う。			市 長

第 11 回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年 12 月 6 日

番号	7	質問者	藤 原 正 伸	タイトル	安全なふるさとづくり
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	鳥獣被害防止の取り組みについて	(1) 朝来市鳥獣被害防止計画が計画期間の最終年度を迎えております。この計画の策定意義についてご所見を伺います。 (2) 防止計画に記載のある対象鳥獣の主なものについて、被害金額軽減目標、捕獲計画数等の計画指標に対する実績の動向について伺います。 (3) 鳥獣被害対策実施隊の意義、構成について伺います。 (4) 防止計画の対象鳥獣にはツキノワグマも含まれていますが、上位計画としての兵庫県ツキノワグマ管理計画に従うことが示されております。ツキノワグマへの対応の特殊性について伺います。 (5) ツキノワグマの目撃情報の取り扱いについて伺います。また近隣市町での目撃情報への対応について伺います。 (6) 鳥獣被害を防止するには近隣市町が連携し広域的に対策に取り組むことが効果的ですが、ツキノワグマへの対応に関し、夜久野高原のように県境を跨ぐ地域においては、より緊密な連携を図る必要があると考えます。被害防止のために積極的な対応が望まれますが、ご所見を伺います。			市 長 教育長
2	防災強化の取り組みについて	(1) 先頃、兵庫県は朝来市域の円山川水系河川について想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図等を公表しましたが、これに関してどのような対応が必要になるのか伺います。 (2) 朝来市ハザードマップに関してどのような影響があるか伺います。 (3) 立地適正化計画に定める居住誘導区域に関してどのような影響があるか伺います。			市 長
3	森はな文学普及事業について	(1) 今年度の取り組みと今後の活動の方向性について伺います。 (2) 「森はな児童文学賞」を創設し、朝来市の自然や風習等を題材に、市民はもとより広く一般から創作絵本の原稿を公募してはどうかと考えますが、ご所見を伺います。			市 長 教育長

第 11 回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年 12 月 6 日

番号	8	質問者	藤 本 邦 彦	タイトル	豊かな自然を活かすために
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	第三次環境基本計画について	(1) 第二次環境基本計画は何を目指しどのような役割を果たしたか。そして課題はなかったか。 (2) 第三次環境基本計画では何を指すのか。どのように活用されるのか。 (3) 環境汚染の問題は多岐にわたっている。特に地方においては農薬による環境汚染のリスクがあるが、第三次環境基本計画ではどのように扱っているか。			市 長
2	自然体験活動、環境教育について	(1) 南但馬自然学校には毎年多くの小学生が来校し、自然体験活動や竹田城跡の散策などを行なっている。兵庫県下の多くの小学校が南但馬自然学校を利用しているが、年間の利用者、利用児童は何名か。 また、西宮市立山東自然の家など、朝来市内の施設などで自然体験活動を行う児童の数はどの程度になるか。 (2) 朝来市内で各種体験活動をされる児童たちに朝来市の魅力を伝えるガイドパンフレットのようなものを配布してはどうか。 (3) 市内小中学校児童生徒への環境教育について。地元の自然について学ぶような授業はされているか。 ふるさと教育としてふるさとの身近な自然について学ぶ事は大切であると思うがどのようにお考えか。			市 長 教育長
3	生物多様性朝来市戦略の策定について	(1) 朝来市の宝である「豊かな自然」の中身を調査、理解し情報として使えるものにする事、宝として使えるものにする事が重要と考える。 そのためには朝来市版生物多様性地域戦略を策定することが必要。 来年度には日本オオサンショウウオの会朝来大会を控えており、自然豊かな朝来市の魅力を全国にアピールするチャンスでもある。貴重な自然を有効活用する事は朝来市にとって大変重要な課題と考える。 生物多様性朝来市戦略の策定に向けて、今後の方針を伺う。			市 長

第 11 回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年 12 月 6 日

番号	9	質問者	上 田 幸 広	タイトル	小規模企業に更なる支援を.
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	(仮称)小規模 企業振興条例 について	(1) 本市の小規模事業者数や生産額の推移など現状について伺う。 (2) 本市が小規模事業者に対して現在実施している支援策について伺う。 (3) 商工会や金融機関などとの連携や新たな方策について伺う。 (4) 経済成長戦略の中での小規模事業者の支援策はあるのか伺う。 (5) 中小企業の振興に対し、基本理念及び基本施策を定め、市、中小企業者、商工会、及び金融機関の役割を明らかにし、関係機関がより一層連携していくことを目的とする（仮称）小規模企業振興条例を制定すべきだと思うが如何か。			市 長
2	糖尿病重症化 の予防につい て	(1) 本市における糖尿病患者及び予備軍の人数とそれにかかる医療費を伺う。 (2) 本市における糖尿病の重症化対策を伺う。 (3) 健診への受診勧奨の取組の現状と課題について伺う。			市 長
3	マイナンバー カードの活用 について	(1) 本市における今後のマイナンバーカードの利活用について伺う。 (2) 本市もマイキープラットフォーム運用協議会へ参加すべきだと考えるが如何か。			市 長

第 11 回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年 12 月 6 日

番号	10	質問者	岡 田 和 之	タイトル	核兵器廃絶・防災対策
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	核兵器廃絶について	(1) 11 月 23 日に来日したローマ・カトリック教会のフランシスコ教皇は長崎と広島を訪れ、核兵器廃絶についてのメッセージを読み上げました。市長の感想をお尋ねします。 (2) 市長は核兵器廃絶国際署名に対し兵庫県知事や県内市長と共に署名を呼び掛けていますが、どのような思いで賛同されたのかお尋ねします。 (3) 他市では独自に署名に取り組んでいるところや、ホームページや庁舎内に署名コーナーを常設している市もあります。積極的に取り組むお考えはありますか。 (4) 日本は核兵器禁止条約に署名、批准すべきだと考えますがいかがでしょうか。			市 長
2	暴風雨被害対策について	(1) 9 月から 10 月にかけて襲来した台風により、関東から東北地方にかけて甚大な被害が発生した。台風の進路がずれていれば本市も大きな被害を受けていたと思われます。どのような課題や教訓を得たのかお尋ねします。 (2) 堤防の越水対策(耐越水堤防工法)や内水処理対策を講じる必要があると考えますがいかがでしょうか。			市 長

第 11 回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年 12 月 9 日

番号	11	質問者	吉 田 俊 平	タイトル	朝来市版UD教育の実現を！
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1 学力向上について		(1) 平成 26・27 年度文部科学省委託事業「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援事業」の成果物として「特別支援教育の視点をいかした授業のユニバーサルデザイン化ハンドブック」が策定された。これは市内の研究指定校（和田山中学校・糸井小学校・大蔵小学）が取り組んだものをまとめたものでありますが、その後の 5 年間で市内小・中学校が重点校として一巡したので、来年度からは市内全校でこれまでの U D（ユニバーサルデザイン）教育を実践するとともにレビュー（検証・更新）をしていく必要があり、上記のハンドブックを朝来市版にカスタマイズ（改良・具体化）させることが必要であると考え、来年度以降においてそういった取組みを行う考えはないか、教育長の所見を伺います。 (2) 「兵庫型教科担任制」においては多くの利点もあるが実質的には教員の負担軽減に繋がっていない側面もあることから、新たな加配の制度創設を検討していく必要があると考えるが、教育長の見解を伺います。また、市内小学校における課外活動は教員が行っている学校と地域指導者が行う学校があり、教員の負担軽減の観点からは地域指導者への移行を教育委員会として推進する必要があると考えるが、教育長の見解を伺います。 (3) 市内の学校における学力向上の取組みの一つとして、各種検定（漢字検定や英語検定など）の実施をしている学校があるが、この取組みは学力を直接向上させる非常に有効な取組みのため市内全校での取組みとして教育委員会が主導するとともに、その経済的負担軽減のための補助制度の創設が必要と考えるが、教育長の見解を伺います。			市 長 教育長

2 竹田城跡保存管理計画について	(1) 竹田城跡保存管理計画の進捗が遅れているようであり、その理由は国庫補助の減額と理解しているが、総事業費は幾らで国庫補助が減額された額は幾らであるのか。また、国庫補助の減額によって朝来市や朝来市民の大切な財産である竹田城跡の保存管理計画の進捗が遅れることを容認する考えは、非常に消極的であり、竹田城跡が市内観光産業等に大きな影響を及ぼしていることから積極的に国庫補助減額分を一般財源やふるさと納税等で予算化し、保存管理計画上の進捗を目指すべきと考えますが、ご所見を伺います。	市長 教育長
3 組織改革について	(1) 公表された人事評価の状況において、目標管理評価は前期後期の平均でS評価が0%、A評価が42.3%、B評価が55.1%で全体の97.4%であり、勤務成績評価は極めて良好が1.8%、特に良好が18.2%、良好が72.0%で全体の92.0%であった。この人事評価の結果をどの様に総括しているのか、またどの様な課題が見えてきたのか、伺います。	市長
4 行政マネジメントシートについて	(1) これまでの経過として成果単位当たり金額の算出方法が複数の成果指標があったためにいずれの成果指標を分母とするかによって成果単位当たり金額に逆転現象が生じるなどの問題点がありました。その後一定の整理はなされる中で受益者数や成果単位当たり金額が廃止されてしまいましたが、各事務事業をコスト比較するには統一した物差しが必要となります。そこで受益者数や受益金額といった統一したコスト指標を同シートに導入する考えはないか、伺います。	市長
5 入札について	(1) 工事以外の入札についても、一般競争入札を導入して競争原理など入札を行う目的の達成をより目指すべきと考えるが、実施する考えはあるか伺います。	市長
6 不妊治療について	(1) 国・県が行う不妊治療費助成は助成金額等を増額等変更している一方で、市が行う不妊治療費助成は制度創設以後に変更がなされておらず増額変更すべきであり、また、男性不妊に対する治療（精嚢切開など）には多額の費用が掛かるなどするため増額変更をすべきと考えるが、変更する考えはないか伺います。	市長

7 障がい児福祉サービスの無償化について	(1) 障がい児福祉サービスの自己負担分の無償化がどうして実現しないのか、市長に伺います。	市 長
8 パブリックコメントについて	(1) 平成19年度以降今日まで38件のパブリックコメントに対して51名の方が意見を出されましたが、こうしたプッシュ型の情報提供は興味のある方や行政等に特に関心をお持ちの方だけに集中するといった弊害がある。そこで今後はプル型の情報提供や、プラーヌンクスツェレの手法などを用いた市民の幅広い市政参加を目指すべきと考えるが、市長の見解を伺います。	市 長
9 公金等の過不足について	(1) 山東支所における公金等の過不足について、実態はどうなっていたのか伺います。	市 長

第 11 回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年12月9日

番号	12	質問者	鈴木逸朗	タイトル	ごみは目前から消えればいいのか
質問事項		質問要旨			答弁を求める者
1	ごみ処理の減量化に関わって	(1) 環境省の意識調査結果について ・「表 3-1-1 3R全般に関する意識の変化」(平成 29 年版環境・循環型社会・生物多様性白書 第 2 部 第 3 章 第 1 節 1 循環型社会形成に向けた現状と課題)をどのように受け止めるか。 - とりわけ「ごみ問題への関心」、「3Rの認知度」、「廃棄物の減量化や循環利用に対する意識」の推移について尋ねる。 ・本市ではどのような意識となっていると考えるか。 (2) ごみ排出量などについて ・2000 年以降のごみ排出量(一人 1 日当たり)、ごみ焼却の実態(直接焼却量と焼却率)はどのようなになっているか。 ・リサイクル率は、近年どのようなになっているか。 (3) 資源回収などについて ・資源回収など集団回収量は、近年どのようなになっているか。 ・今年度の補助金等評価において、集団回収事業助成金の評価は、どのような資料に基づいて行われたのか。 また、1 次評価、2 次評価、外部評価においての意見は、どのような過程を経て出されたのか。			市長
2	変形労働時間制について	(1) 公立学校の教員の 1 年単位の変形労働時間制について ・現在、国会で審議中の「教職員給与特別措置法改正案」は、どのような内容と認識されているか。 ・「学期中の労働時間がさらに長くなる」との声があるが、どのように考えるか。 ・法案では、各自治体の条例で定めるとあるが、市立学校の教員はどのようなになるのか。 (2) 現場の教員からの声などについて ・向こう 30 日間の日々の労働時間を、その初日の 1 か月も前に決め、途中での変更が許されないことから、「現実的でない」との声があるがどう思うか。			教育長 市長

	・政府は「教員の夏休みのため」という唯一の理由で宣伝しているが、実際に夏休みはとれるようになるのか。 ・市内の学校閉庁日などの状況はどのようになっているか。 ・全国教育委員会はどのように考えているのか。 (3) 教員の長時間労働をなくす抜本的な対策について ・公立教員給与特別措置法は、現実と乖離しているのではないか。	
--	--	--

第 11 回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年 12 月 9 日

番号	13	質問者	嵯峨山 博	タイトル	住みよい朝来市を目指して
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	高齢ドライバーへの補助金制度設立について	(1) 全国的に高齢ドライバーによる自動車事故が問題視されている。主な原因は、ペダルの踏み間違いによるものである。この対策として、各自治体においては、急加速抑制装置として機能する安全運転支援装置の設置に対する補助金事業を実施している。本市でも補助金制度を設けてはと考える。 (2) 今後販売される新車に、自動ブレーキシステム搭載の義務付けが検討されている。公共交通の充実が課題である本市においては、高齢者の免許証返納も難しい所がある。ある一定の年齢制限を設け、補助金制度の設立を考える。			市 長
2	農業課題解決について	(1) 若者の就農率向上や儲ける農業へ様々な計画がなされているが、現状では高齢者の方が主に農業をされている状況であると考え。集落営農等、グループでの農業の取り組みも、多くの課題があるのではないかと考える。農繁期の対応が困難な状況ではないか。今後、農繁期の人材が必要になるのではないかと考える。農繁期への応援人材確保の取り組みを考える必要がある。 (2) 「昔から農機具があり、仕方なしに農業を行なっている。」「新たな農機具を購入してまで農業を行うことはできない。」とよく聞く。農機具のレンタルや人材確保など地域課題の解決に向けた仕組みの構築が必要であると考え。			市 長
3	市立小・中学校講演について	(1) 講演会へ招聘する講師や内容はどのように決定するのか。 (2) 市民から、ある中学校での講演内容についてクレームがあったと聞くが内容はどのようなものであったか。 (3) その後の対応はどのようにされたか。再発防止に向けどのようにするか。			教育長

第 11 回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年12月9日

番号	14	質問者	日 下 茂	タイトル	播但線の活性化と電化
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	播但線の電化について	(1) 播但線の高速化はハイブリッドではできない。この現実について、市長の見解は。 (2) 高速化には電化しかない。そのためには沿線地域を活性化させ、交流人口や消費人口の増加を図る必要があると考えるが、市長の見解は。 (3) 播但線の高速化実現には線路の強化、電化に向けた要望だけでなく提案もしていくべきと考えるが、市長の見解は。 (4) 播但線の歴史や現状、将来性を認識した上で、電化、高速化のメリットを提案していくべきと考えるが、市長の見解は。			市 長
2	市内高等学校の存続について	(1) 国際観光芸術専門職大学の開設が本市にとって、どのような影響（メリット）があると考えられるか。また、観光・グローバル類型を持つ生野高校との協力関係は生まれるのか。さらに、市内2県立高等学校との間に活性化につながる関連性は生まれるのか。 (2) 和田山高等学校、生野高等学校の募集定員は据え置かれたが、来年度は大幅な定員割れが発生する可能性もあり、学校の存続問題にもなりかねない。本市にとって、2つの高校の存続は、大きな問題と考えるが、市長の見解は。また、市としての対策は。			市 長 教育長